

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		10/31-11/7	11/7-11/14
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.025
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	欠測
		セシウム137	0.020
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	不検出
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.058
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.025
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.048
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.018
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.025

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		10/31-11/7	11/7-11/14
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.019
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.012

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第97回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
平成30年10月31日～11月14日の間の大気浮遊じん中の放射能濃度は、セシウム137が平均0.027mBq/m³(セシウム134は観測されず)と非常に少なく、飛散する放射能による健康影響を心配することはありません。セシウムは、ナトリウムやカリウムと同じアルカリ金属に属する原子番号55の元素で銀白色で、非常に軟らかく、融点は約28℃で夏季には室温でも液体になります。体内では、カリウムと挙動をともにし筋肉などに集まりますが、土壌の成分と反応すると強固な結合をつくり水に溶けなくなる性質を持っています。そのため、土壌中にセシウム137が存在しても農作物に吸収されなくなるのです。